

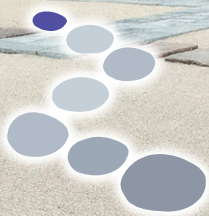
平成三十一年 法要日程

諸行無常

浄土真宗本願寺派

慈雲山

善教寺



善教寺
ZENKYO-JI

しよぎょうむじょう 「諸行無常」

「諸行無常」は仏教の命題である。

「諸法無我」「涅槃寂靜」と共に、仏教教理の基本的特徴を示す三法印の一つ。

とくに原始仏教経典に記されている。諸行の「行」とは「つくられたもの」の意であるから、全体で「一切のつくられたものは時間の推移によって生滅変化し、常なることはない」という意味になる。

この世界と私たちのありのままの姿を「諸行無常」という言葉で表し、この世界のすべての物事は一瞬もとどまることなく移り変わっている。したがって、固定した変化しない私というものは存在しない。

しかし、私たちはこのありのままの真実に気づかず、自分というものを固定した実体と考え、欲望の赴くままに自分にとって得か損か、好きか嫌いかなど、常に自己中心の心で物事を捉えている。

その結果、自分の思い通りにならないことで悩み苦む。争いを起こし、苦悩の人生から一歩たりとも自由になれない。

このように真実に背いた自己中心性を、仏教では無明煩惱という。

この煩惱が、私たちを迷いの世界に繋ぎ止める原因である。

善
教
寺
墓
苑

善教寺シンボルマーク



善教寺
ZENKYO-JI

TSUTAE-ISHI 「Z」
石を伝い歩く、別名「伝え石」をモチーフに、今を生きる道の指標を、「Z」としてシンボリックに表現。

ZENKYO-JIの「Z」
禪(ZEN)の「Z」
「Z」は、アルファベットの最後であることから、これより上位のものは存在しない・最終・最高・究極、などの意。

ごあいさつ



善教寺
第20代住職 廣幡 勝祐
HIROHATA Masahiro
Chief Priest of Zenkyo-ji
Buddhist Temple

2018年7月6日、平成最後の夏に中四国を襲った西日本豪雨災害、おそらくこれから何世代にもわたり語り継がれることでしょう。

ここ数年、立て続けに、世界各地で想定外の自然災害が起こります。地球が怒っているのか、悲鳴をあげているのか…。

私たち人間は、この地球に住まわせてもらっているという、謙虚で感謝の気持ちと、大自然に対する大いなる畏敬の念を持たなくてはと、改めて思い知らされました。

自然災害が起こる度に、我が身の無力さを思い知り、心が痛くなります。

被災された方から、お話を伺っていると、「あの時のまま時間が止まっている…」と。壊れた物は修復すれば良いですが、心の傷は時間の経過と共に癒されるものではありません。

被災された方々の心が癒されるのは、かなりの年月を要すると思います。

皆さまの安穏なる生活が戻りますこと、心よりお祈り致します。

合掌

2019年(平成31年)善教寺本堂

法要行事 予定表



◎元旦会

1月 1日(火) 元旦 午前7時～
講師／善教寺住職

◎御正忌

1月 12日(土) ◆ 朝席 昼席
講師／浄謙 恵照 師(北広島町奥原 浄謙寺)

◎護持会総会

2月 11日(月) 建国記念の日
講師／善教寺住職
(一般法要はお勤め致しません)

◎仏教婦人会報恩講

3月 8日(金) 昼席
9日(土) ◆ 朝席 昼席
講師／足利 孝之 師(兵庫県尼崎市 安養寺)
(仏婦会員追悼法要・仏婦総会開催)

◎永代経法要

4月 13日(土) ◆ 朝席 昼席
講師／服部 法樹 師(呉市豊浜町 登照寺)

◎安居会(夏の法要)

6月 22日(土) ◆ 朝席 昼席
講師／松枝 崇 師(東広島市河内町入野 長照寺)

◎盂蘭盆会納骨法要

8月 7日(水) ◆ 朝席 昼席
講師／吉崎 哲真 師(広島市佐伯区湯来町 西法寺)

◎秋季彼岸会

9月 21日(土) ◆ 朝席 昼席
講師／柄崎 佳之 師(竹原市新庄町 善明寺)

◎護持会報恩講

10月 26日(土) ◆ 朝席 昼席
講師／広幡 康祐 師(呉市安浦町 信楽寺)

◎報恩講

12月 2日(月) ◆ 朝席 昼席
講師／中村 英龍 師(広島市佐伯区湯来町 最広寺)
(平成31年 お接待当番 柏原地区)

◎除夜会

12月 31日(火) 大みそか 午後11時45分～
講師／善教寺住職
(鐘楼堂にて除夜の鐘撞き)

● 法要開式時間／朝席:午前10時～
昼席:午後1時半～

● 「◆」印は送迎バス運行日

● 送迎バスルート／(時間場所等の詳細は善教寺までお問い合わせください)
長野地区(西条町福本)→三升原地区(東広島運動公園)→室積ハイツ地区→東子地区→金清地区→中郷地区→柏原地区→市ノ畑地区→小比曾地区→吉郷地区→樋之掛団地→善教寺
(法要終了後はこの逆ルートで運行します)

聴聞の心得

今日のこの御縁は初事と思うべし
今日のこの御縁は我一人の為と思うべし
今日のこの御縁は今生最後と思うべし



定例法要行事（善教寺本堂）

- ◎宗祖親鸞聖人月忌・門信徒祥月命日法要
毎月16日 午後1時半～

仏教婦人会主催行事（善教寺本堂）

- ◎初参式 5月（開催日未定）
◎夏の子ども会 7月（開催日未定）

柏原説教堂

- ◎御正忌報恩講
1月 21日(月) 昼席 夕席
22日(火) 朝席 昼席
講師／徳正 俊平 師(三原市大和町 徳正寺)
- ◎春季彼岸会
3月 18日(月) 昼席 夕席
19日(火) 朝席 昼席
講師／根来 智 師(呉市阿賀北 宝徳寺)
- ◎盂蘭盆会法要
8月 19日(月) 昼席 夕席
20日(火) 朝席 昼席
講師／平原 堅正 師(呉市阿賀北 宝徳寺)



「白骨の章」^{はっこつしょう}（意識）

さて、浮雲のような人の世の有様をよくよく考えてみますと、本当にはかないものとは、この世の始めから終わりまで幻のような一生涯であります。だから、人が一万年生きたということを聞いたことがありません。

一生は過ぎやすいものです。末世の今では、いったい誰が百年間身体を保つことができましょうか。私が先か、人が先になるか、今日かもしれない、明日かもしれない、おくれたり、先立ったり、人の別れに絶え間がないのは、草木の根本にかかる雫（しずく）や、葉先にやどる露（つゆ）のように数が多いと、いわれています。

だから、朝には血色の良い若さのみなきる顔色であっても、夕方には白骨になってしまう身であります。現に無常の風が吹いてくると、二つの眼はたちまち閉じ、一つの息が永久に途切れてしまえば、血色のよい顔も色を失って、桃や李（すもも）のような美しいすがたをなくしてしまうのです。その時に、家族・親族が集まって嘆き悲しんでも、もはやどうにもなりません。そのままにしておけないので、野辺の送りをして火葬すれば、夜半の煙となってしまう、ただ白骨が残るだけです。あわれという言葉だけでは言い表し尽くすことができません。

人間のはかないことは、その寿命が老人でも若者でも定まりのない境界なのですから、どのような人も早く後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏を深くたのみにして、念仏を申さなければならないものなのである。

別離の悲しみをご縁に…

「白骨の章」といわれるこの御文章は、一般的には通夜葬儀を通して拝読されます。この御文章を耳にすると、命の無常の姿を改めて教えられることでしょう。特に身近な方、大切な方との別離においては、そこに示される無常観には共感の嗚咽が広がることにもなります。



葬送儀礼の心得

葬儀のこころ

人の死、それは人生の最も厳粛な出来事です。とくに身近な人の死ほど、つらく悲しいものではありません。けれども、私たちは哀別の情のみにとどまることなく、縁ある方の死によって、日頃気づいていない自分の人生に気づかされ、尊い仏縁を深めさせて頂く機縁としたいものです。

浄土真宗の法名と院号

【法名】

仏法に帰依して仏弟子となった方につけられる名のことです。

浄土真宗本願寺派では、法名はすべて二字とし、「釋」の字を上冠し、「釋〇〇」とします。「釋」は仏弟子となるという意味で、釈尊（お釈迦さま）の一字をいただきます。

【院号】

法名の上につける名称のこと。もともとは寺院の名をもってそこに住む僧侶を呼ぶ風習が、平安時代ごろから起こり、後には居住する寺院の名に関係なく「〇〇院」の称号が用いられるようになりました。

現在では、懇志金（20万円以上）を本願寺に納められた方に対して、宗門の護持発展に功績があった方と認め、本願寺より院号が授与されます。

「〇〇院釋〇〇」とします。



葬儀後の手引き

【お礼参り】

葬式の後、「お手次寺」にご安置される、阿弥陀如来さま（仏さま）に対しての報恩感謝のお参りを、お礼参りと云います。

大切な方が亡くなられて、悲しみの中、お葬式というご縁にあい、人の世の無常を知らされます。亡くなられた方を仏さまとして受け止めるなかに、様々なことを気づかせて頂きます。

亡くなられた方をご縁として、「お手次寺」の御本尊さまに、一度お参りください。

【永代経懇志(永代供養)】

永代経とは、末永く（永代に）お経が読み続けられることです。故人の命日に、永代供養のお勤めを致します。

懇志金の額は定まっておられません。懇志金を納められた方のお名前、故人の俗名・法名・命日を、本堂に掲示します。

懇志金を納める時期も定まっておられませんので、いつでもご相談ください。

【納骨】

お墓へ納骨する時期は定まっておられません。お葬式の当日に納骨される方があれば、10年くらいお仏壇の脇へご安置される方もいらっしゃいます。

お墓を建立されていない方は、急かされて建立される必要はありません。ご家族ご親族の皆さんでよく相談されてからお決めください。お墓の場所も大事ですが、50年先・100年先のことまで考慮されてはと思います。

【善教寺納骨堂への分骨】

善教寺の納骨堂へ分骨される方は、お骨を持ってお参りください。

納骨堂永代安置料に関して、定まった金額はありません。永代経懇志（永代供養）として、お納めくださいますようお願いいたします。

法事の心得

【法事は仏恩報謝】

法事は亡き人を縁に勤められることから、亡き人のため、亡き人への追善供養として勤めるものと、誤解されます。法事は命日を縁に、經典をいただき仏徳を讃嘆し、亡き人を偲びつつ、この私が仏法を聴く行事、仏恩報謝の想いをはこぶ行事です。

法事を、お念仏にあう尊い聞法の縁といたしましょう。

【法事の時期】

参集する家族や親戚の都合で、法事を日曜日などに勤めることが多くなりましたが、できれば祥月命日に勤めることが望ましいです。

土曜日・日曜日・祝日は、法事の予定が早くから入ります。法事を希望される日が決まりましたら、早めにご依頼ください。

【法事の場所】

昨今は善教寺本堂での法事が増えてきました。本堂で法事を希望される方は、遠慮なくお参りください。参拝人数は、少人数でも、50人でお参りされても構いません。

本堂内には椅子を完備しております。

【法事の進行】

(自宅で勤める一般的な場合)

- 一. 一同着座
- 二. ローソク点火 香炉に火種を入れ焼香の準備
- 三. 施主あいさつ
- 四. 一同合掌礼拝
- 五. 読経
- 六. 焼香
- 七. 御文章拝読 法話 領解文拝読
- 八. 施主おわりのあいさつ



善教寺
ZENKYO-JI

永代納骨堂



御経蔵



鐘楼堂



Zenkyo-ji

善教寺の沿革

善教寺は、慈雲山持名院と称し、沼隈郡今津の西空と申す僧の開基した寺なり。後に名を西空より道宗と改め、以後道空、道善、戸満、戸念、周海、吟瑞、顕瑞、建幢、僧蓐、眞瑞、無染、眞利、順道、観信、実證、慈円、龍雲、実祐、勝祐（第二十代住職）に至る。この間、改宗・改派したることなし。（善教寺の歴史より）

- 1513年(永正10年) 慈雲山持名院と称し開基
1640年(寛永17年) 本尊木佛並びに寺号を本願寺より拝受是より善教寺と称す
1691年(元禄 4年) 本堂造営,庫裏建立
聖徳太子,三國七高僧,良如上人,絵像三幅を本願寺より拝受
1720年(享保 5年) 親鸞聖人の絵像を本願寺より拝受
1728年(享保13年) 梵鐘
1741年(寛保元年) 本堂再建(本堂間数49坪 染行7間 桁行7間)
鐘楼堂建立(間数3坪 染行1間半 桁行2間)
1752年(宝暦 2年) 薬医門,土蔵,建立
1779年(安永 8年) 蓮如上人の絵像を本願寺より拝受
1821年(文政 4年) 客殿,建立
1833年(天保 4年) 四幅御影を本願寺より拝受
1885年(明治18年) 顕如上人の絵像を本願寺より拝受
1917年(大正 6年) 庫裡再建(間数15坪 染行5間 桁行3間)
本堂瓦に葺替
1928年(昭和 3年) 経蔵建立
1949年(昭和24年) 庫裡再建
1974年(昭和49年) 親鸞聖人像建立
1980年(昭和55年) 本堂黒瓦に葺替
1986年(昭和61年) 納骨堂建立
1991年(平成 3年) 山門,台風により修築
1997年(平成 9年) 庫裡再建,本堂修築
1998年(平成10年) 経蔵,鐘楼堂,現在地へ移動
1998年(平成10年) 第20代住職継職法要勤修
2001年(平成13年) 納骨堂,地震により修築
2004年(平成16年) 山門,台風により修築
2009年(平成21年) 倉庫建立,駐車場造成
2011年(平成23年) 境内地石畳整備
2014年(平成26年) 参拝者用駐車場整備
2015年(平成27年) 山号額(慈雲山)修復
2017年(平成29年) 善教寺墓苑(墓苑名:慈雲山浄縁)開山

善教寺の概要と組織

..... 【 概要 】

寺院名	浄土真宗本願寺派 慈雲山 善教寺
法人名	宗教法人 善教寺
包括宗教団体名	浄土真宗本願寺派
所在地	東広島市西条町田口500-4
開基	1513年8月 (室町時代中期)
住職	廣幡 勝祐 (第二十代住職)
総代	石原 賢治 上田 常雄 下満 久子

..... 【 組織 】

善教寺護持会

会長	石原 賢治	副会長	上田 常雄	副会長	下満 久子
会計	池田 龍一				

・目的

善教寺門信徒世話係としての責務を全うするため、自ら開法にはげみ宗門の発展に資するとともに、寺院の護持発展に寄与することを目的とする。

・活動内容

護持会報恩講の開催
寺院活動の充実と護持に関すること
各種案内の配布
仏教壮年会・仏教婦人会・仏教青年会等の育成

善教寺仏教壮年会

会長	菅原 昭	副会長	小池 智慧登	副会長	水田 稔
会計	永井 清八郎				

・目的

自ら開法にはげみ、善教寺の護持発展に寄与することを目的とする。

・活動内容

東部地区仏教壮年大会への参加

善教寺仏教婦人会

会長	下川 裕子	副会長	菅原 京子	副会長	高橋 和子
会計	山田 静子				

・目的

いのちの尊さを学び、思いやりのある、心豊かな社会を育むために行動する。
仏さまのお心を聴聞し、仏さまと共に人生を歩んでいく。
本当に大切なものを見直して、気づいて、伝えていく。

・活動内容

善教寺仏教婦人会報恩講の開催
故会員追悼法要の開催
初参式の開催
夏の子どもの会の開催
その他法要へのご参加

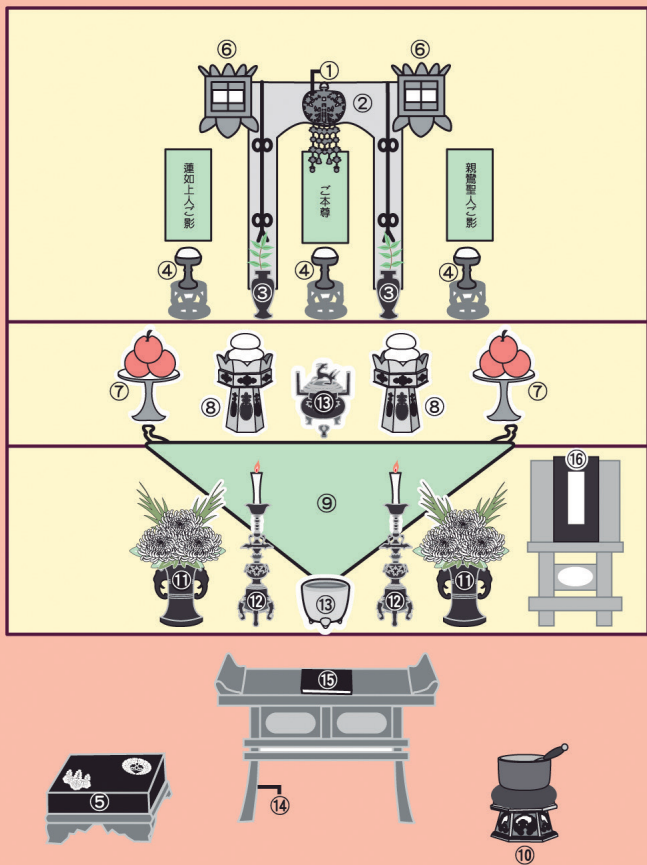


普及型仏壇のお飾り

- ①華鬘(けまん) ⑥金灯籠(かなどうろう) ⑪花瓶(かひん)一対
- ②戸帳(とちょう) ⑦供笥(くげ) ⑫ろうそく立一対
- ③華瓶(けびょう)一対 ⑧高杯(たかつき) ⑬香炉(こうろ)
- ④仏飯器(ぶつばんき) ⑨打敷(うちしき) ⑭経卓(きょうじょく)
- ⑤御文章(ごぶんしょう) ⑩おりん ⑮日常勤行聖典
- ⑯過去帳(かこちょう)

五具足

※香炉は金香炉と土香炉を合わせて一つとみなします。



2019年(平成31年)年回忌表

年回忌	没年(和暦)	(西暦)
1周忌	平成30年	2018年
3回忌	平成29年	2017年
7回忌	平成25年	2013年
13回忌	平成19年	2007年
17回忌	平成15年	2003年
25回忌	平成7年	1995年
33回忌	昭和62年	1987年
50回忌	昭和45年	1970年
100回忌	大正9年	1920年

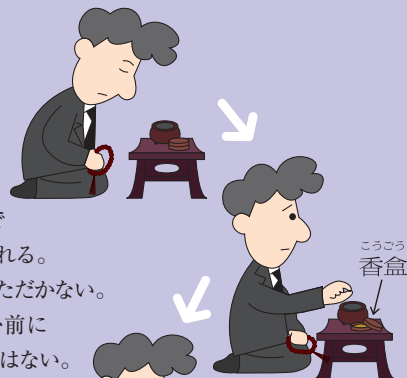
知ってますか？

お焼香の作法

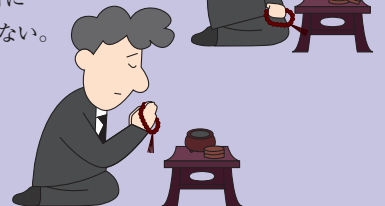
お焼香は、正しくはどのようにするのか知らないことが多いようです。お焼香の作法は各宗派によってまちまちですが、私たち浄土真宗本願寺派では、お香はおしいたかない事になっています。なぜならお焼香は、仏さまを拜む前に自分の体臭を消し除くことからです。回数は1回です。

作法の手順

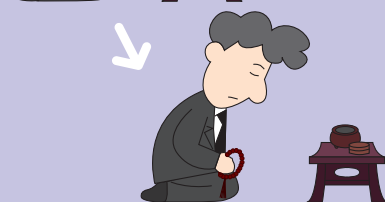
1. 仏様に向かって
軽く頭を下げる。



2. お香を1回つまんで
そのまま香炉に入れる。
お香は額におしいたかない。
また、お香をつまむ前に
合掌礼拝する必要はない。



3. 合掌礼拝をする。



4. 礼拝が終われば
2・3歩後退して
軽く頭を下げる。
以上が基本です。
覚えておいて下さい。

大切なポイント！

- お仏壇はご本尊・阿弥陀仏をご安置する所。
- お仏壇は死者のためでなく、生きている私のためにある。
- 浄土真宗では位牌を用いず、故人の法名は過去帳に記す。
- 仏具は定められた位置に荘厳する。
- 浄土真宗では、線香は立てずに寝かせる。
- お仏壇を求める時は宗派名(浄土真宗本願寺派)をはっきりと告げる。

◎善教寺への交通アクセス◎



■ J R 西条駅(山陽本線)より

タクシー利用約15分

J Rバス利用の場合、西条駅前から郷田線(乃美尾・国際大学方面)に乗車し、中郷で下車。中郷より徒歩約5分

■ J R 東広島駅(山陽新幹線)より

タクシー利用約10分

■ 志和 I C (山陽自動車道)より

西条バイパスを經由し広島大学方面へ

■ 高屋 J c t (山陽自動車道)より

東広島呉自動車道路に入り馬木 I C から広島大学方面へ

※お車でご参拝の方は本堂西側の駐車場(50台駐車可)をご利用ください。

◎善教寺へのお問い合わせ◎

浄土真宗本願寺派

慈雲山 善教寺

〒739-0036 東広島市西条町田口500-4
TEL 082-425-1357 FAX 082-425-1248
善教寺ホームページ <http://www.otera.or.jp>
メールアドレス zenkyo@otera.or.jp